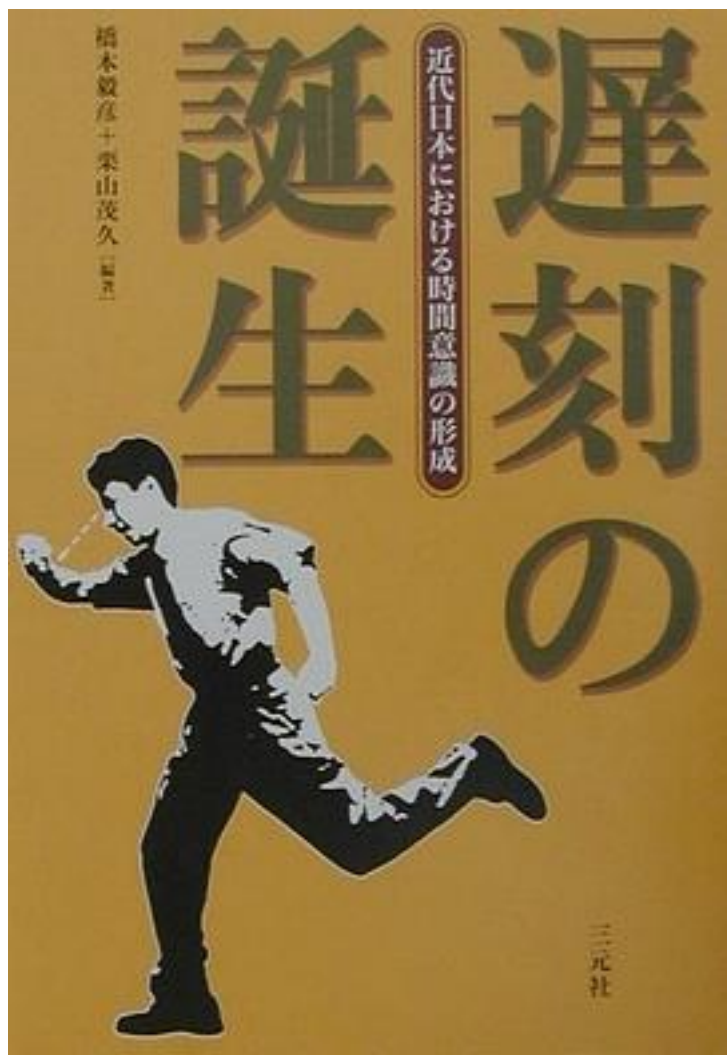


遅刻の誕生



[遅刻の誕生_ 下载链接1](#)

著者:橋本毅彦（編著）

出版者:三元社

出版时间:2001-8

装帧:单行本

isbn:9784883030835

いつから時計が気になるようになったのか。明治6年1月1日をもって、日本は太陽暦、定時法の社会へと転換した。鉄道、工場、学校における時間規律の導入はいかにして行なわれ、そして、人々の生活をどのように変えていったのか。現在に至るまでの、時間意識の変遷をたどる。

作者介绍:

橋本毅彦 [ハシモトタケヒコ]

1957年、東京都生まれ。東京大学先端科学技術研究センター教授

栗山茂久 [クリヤマシゲヒサ]

1954年、香川県生まれ。国際日本文化研究センター助教授

※書籍に掲載されている著者及び編者、訳者、監修者、イラストレーターなどの紹介情報です。

目録: 序文 3

第1部 定刻志向——鉄道がもたらしたもの 15

第1章 近代日本における鉄道と時間意識 (中村尚史) 17

第2章

一九二〇年代における鉄道の時間革命——自動連結器取替に関連して (竹村民郎) 47

第2部 時間厳守と効率性——新労働管理の発展 77

第3章 近世の地域社会における時間 (森下徹) 79

第4章 二つの時刻、三つの労働時間 (鈴木淳) 99

第5章 蒲鉾から羊羹へ——科学的管理法導入と日本人の時間規律 (橋本毅彦) 123

第3部 時間の無駄のない生活——子供の教育と主婦の修養 155

第6章 子供に時間厳守を教える——小学校の内と外 (西本郁子) 157

第7章 家庭領域への規律時間思想の浸透 羽仁もと子を事例として (伊藤美登里) 189

第4部 新暦と時計の普及——近代的タイム・フレームの形成 211

第8章 明治改暦と時間の近代化 (川和田晶子) 213

第9章 歳時記の時間 (長谷川櫂) 241

第10章 明治時代における時計の普及 (内田星美) 267

第5部 時間のゆくえ 289

第11章 農村の時間と空間——時間地理学的考察 (荒井良雄) 291

第12章 「時は金なり」のなぞ (栗山茂久) 321

文献解題 時間を考えるための五〇の文献 (橋本毅彦) 345

・ ・ ・ ・ ・ ([收起](#))

[遅刻の誕生](#) [下载链接1](#)

标签

时间

日本

栗山茂久

#日本

迟到

科学人文

时间观念

日本史

评论

近代日本时间观念的转变。其中有不少关于劳工制度的资料，还有铁路时刻表的沿革，满有意思。
然而就整本书的内容而言略显松散和重复。作为一本论文集，也没有太多办法吧。

[遅刻の誕生 下载链接1](#)

书评

[遅刻の誕生 下载链接1](#)